

中小企業排出量報告制度運営者向け

温室効果ガス排出量の点検の手引き

平成 25 年 1 月

環境省

地球温暖化は人類が真剣に取り組まなければならない大きな課題です。このため、国は地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）やエネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）等により、大規模に温室効果ガス（GHG）を排出している事業者に対し、GHGの排出あるいはエネルギー使用実績の報告等を要請するとともに、それらの削減を求めています。また、23の都道府県と政令指定都市が中小規模の事業者または事業所にGHG排出量の削減計画や実績の報告に関する制度（自主的に参加する制度を含む）を設けています。

企業にとってGHG排出量を知ることは削減に向けた第一歩です。そのため、GHG排出量を適切に算定することが削減への取組の基礎となりますが、算定時あるいは報告書等の作成時の単純な転記ミス等により、間違ったGHG排出量が報告されてしまうこともあります。制度運営において事業者が報告したGHG排出量を点検する際に、本手引きが参考になれば幸いです。

平成 25 年 1 月
環境省

目次

1．本手引きについて	3
2．排出量報告値の点検におけるポイント	4
(1) 排出量の報告にみられる間違いの種類	4
(2) 点検の方法とポイント	15
3．事業所の訪問	20
【参考例：点検用チェックリスト】	21
【参考情報】	22

1. 本手引きについて

本手引きは、事業者が報告した GHG 排出量（以下、「排出量」という。）を地方自治体の温暖化対策担当者が点検する際のチェックポイントをまとめたものです。

エネルギー使用量の把握や報告については、「中小企業地球温暖化対策推進ガイドライン」（以下、「推進ガイドライン」という。）を公表しており、本手引きは、これと合わせて使用していただけるように作成しました。

本手引きには、一般的に使用される電気並びに都市ガス、LPG、LNG、A 重油、灯油及び軽油の燃焼によるエネルギー起源 CO₂ を対象とするチェックポイントを記載しています。また、排出係数については、事業者が、地方自治体作成の資料等から該当する排出係数を選択して使用することを想定しています。

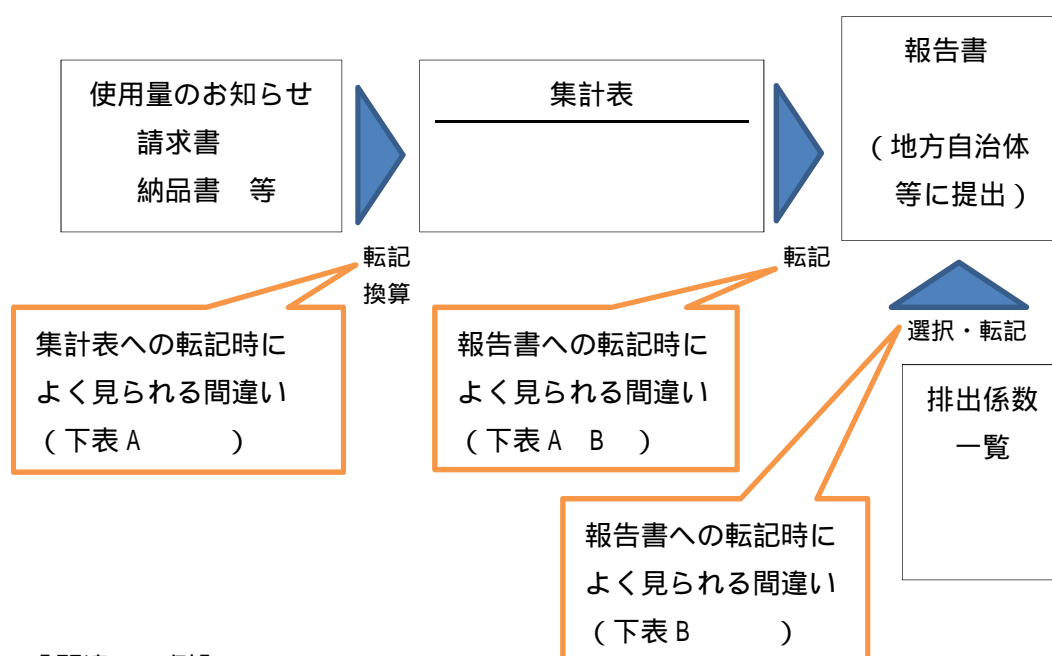
温対法に基づく算定報告公表制度や省エネ法に基づく取組や計画書制度等、制度によって、エネルギー等の報告対象範囲や様式が異なる場合があります。本手引きのチェックポイントがそのまま当てはまらない場合もありますが、状況に応じて、適宜、参考にしてください。

2. 排出量報告値の点検におけるポイント

提出された排出量の報告書を点検することにより、大きなミスを発見できることがあります。以下では、排出量の報告によく見られる間違いを算定要素であるエネルギー使用量と係数の別に例示しながら、点検する際のポイントを解説します。

(1) 排出量の報告にみられる間違いの種類

排出量は、エネルギー使用量に排出係数を乗じて算出されます。多くの場合、毎月の請求書等を集計して1年間の購入量（エネルギー使用量）が算出されます。請求書等から集計表への転記時や集計表から報告書への転記時あるいは排出係数の選択や報告書の作成時に、次のような誤りが生じることがあります。



【間違いの例】

データ種類	間違いの種類	事例掲載頁
A エネルギー使用量	単位変換時のミス（表示桁・単位の種類を変える場合の換算ミス）	5-6
	数値の転記ミス（ダブリ・脱漏・誤記）	7
	集計漏れ	8
	報告漏れ（記入漏れ）	9
B 係数	排出係数の選択誤り	10
	報告様式の記入欄の選択誤り	11
	他の報告で使用した排出係数の適用	12
	改訂前の排出係数の適用	13

A エネルギー使用量の間違い

事業者は通常、各月の請求書等により、エネルギー使用量を集計しています。各月の使用量を集計する際、数値入力や換算を間違ふことがあります。

単位変換時のミス

請求書等の元データの単位と報告数値の表示単位の種類や桁が異なる場合、単位の変換を間違ふことがあります。

(ア) 表示桁を変える場合の変換ミス

よく見られる表示桁の変換例

- ・ リットル(L)とキロリットル(kL)
- ・ キログラム(kg)とトン(t)
- ・ メガジュール(MJ)とギガジュール(GJ)
- ・ キロワットアワー(kWh)と千キロワットアワー(千kWh)

1kL = 1,000L
1t = 1,000kg
1GJ = 1,000MJ

例 (請求書) kL (集計表) L の場合

請求書
4月21日～5月20日
A重油 18.3 kL
円

転記

集計表

数量区分	単位	5月
購入電力(昼間8時～22時)	kWh	12,345
購入電力(夜間22時～翌日8時)	kWh	
都市ガス	m ³	16
液化石油ガス(LPG)	kg	21.8
液化天然ガス(LNG)	kg	
灯油	L	
A重油	L	18.3
軽油	L	368

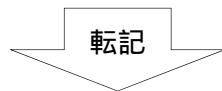
単位がLなので
18,300が正しい。

(イ) 単位の種類を変える場合の換算ミス

例 請求書が m³、集計表が kg の場合

- ・ 体積 (m³) から重量 (kg) への換算漏れ
- ・ 使用する換算係数の選択誤り

請求書
4月21日～5月20日
LPG 10 m ³
円



LPG の請求書は、体積表示のものと重量表示のものがある。

集計表 : 体積 (m³) から重量 (kg) 時の換算漏れ

数量区分	単位	5月
購入電力 (昼間 8 時 ~ 22 時)	kWh	12,345
購入電力 (夜間 22 時 ~ 翌日 8 時)	kWh	
都市ガス	m ³	16
液化石油ガス(LPG)	kg	10
液化天然ガス(LNG)	kg	
灯油	L	
A 重油	L	18,000
軽油	L	368

集計表は kg なので、LPG の換算係数() (1m³ = 2.18kg) を乗じた **21.8** が正しい。
 出典 : 日本 LP ガス協会 HP
http://www.j-lpgas.gr.jp/news/files/20091019_kanzan.pdf

集計表 : 使用する換算係数の選択誤り

数量区分	単位	5月
購入電力 (昼間 8 時 ~ 22 時)	kWh	12,345
購入電力 (夜間 22 時 ~ 翌日 8 時)	kWh	
都市ガス	m ³	16
液化石油ガス(LPG)	kg	19.9
液化天然ガス(LNG)	kg	
灯油	L	
A 重油	L	18,000
軽油	L	368

プロパンの換算係数 (1m³ = 1.99kg) を乗じている。
 LPG の換算係数 (1m³ = 2.18kg) を乗じた **21.8** が正しい。

集計漏れ

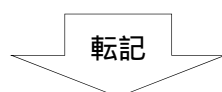
データ量が多く、請求書や納品書を手作業によって集計している場合や臨時的な購入がある場合は、集計漏れが生じやすくなります。

例えば、次のような場合は、データ量が多い可能性や取引を見落とす可能性が高くなります。

- ・ 複数業者から購入している。
- ・ 購入先は1社であるが、請求書は部署ごとに、あるいは、納品の都度作成される。
- ・ 請求書は月単位であるが、燃料種別の購入量は表示されていないため、納品書を集計して購入量を算出している。
- ・ 定常的な取引先からではない取引業者からの臨時的な燃料購入がある。

例 3枚ある請求書のうち、1枚が集計されていない。

請求書(A社) 4月21日～5月20日 軽油 200L 円	請求書(B商店) 4月21日～5月20日 軽油 50L 円	請求書(C社) 4月21日～5月20日 軽油 100L 円
-----------------------------------------------	-----------------------------------------------	-----------------------------------------------



集計表

数量区分	単位	5月
購入電力(昼間8時～22時)	kWh	123,345
購入電力(夜間22時～翌日8時)	kWh	
都市ガス	m ³	16
液化石油ガス(LPG)	kg	21.8
液化天然ガス(LNG)	kg	
灯油	L	
A重油	L	18,000
軽油	L	300

B商店の請求書の
50Lが集計から漏れ
ている。
350が正しい。

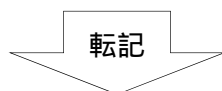
報告漏れ（記入漏れ）

1 年間の集計値を報告様式に転記する際に、一部のエネルギーの報告が漏れることがあります。

例 報告様式への都市ガスの記入漏れ

集計表

数量区分	単位	当期
購入電力（昼間 8 時～22 時）	kWh	123,456
購入電力（夜間 22 時～翌日 8 時）	kWh	
都市ガス	m ³	170
液化石油ガス(LPG)	kg	250
液化天然ガス(LNG)	kg	
灯油	L	
A 重油	L	18,000
軽油	L	368



報告様式

数量区分	単位	使用量 合計	排出 係数	CO2 排出量 (kg)
購入電力（昼間 8 時～22 時）	kWh	123,456	0.384	47,407
購入電力（夜間 22 時～翌日 8 時）	kWh		0.384	0
都市ガス	m ³		2.23	
液化石油ガス(LPG)	kg	250	3.00	750
液化天然ガス(LNG)	kg		2.70	0
灯油	L		2.49	0
A 重油	L	18,000	2.71	48,780
軽油	L	368	2.58	949

都市ガス使用量合計の記入が漏れている。

B 係数の適用間違い

エネルギー使用量に排出係数を乗じて排出量が算定されます。排出係数の選択誤りにより、不適切な係数が適用されてしまうことがあります。

排出係数の選択誤り

多くの人にとって、排出係数は日常的に馴染みの薄いものです。排出係数を事業者が選択して入力する場合、適切な排出係数が選択されていないことがあります。

例 (請求書) LNG (誤) 係数 LPG

排出係数一覧		
種類	排出係数	単位
購入電力(昼間8時~22時)	0.384	kWh
購入電力(夜間22時~翌日8時)	0.384	kWh
都市ガス	2.23	m ³
液化石油ガス(LPG)	3.00	kg
液化天然ガス(LNG)	2.70	kg

請求書(A社)
4月21日~5月20日
LPG 250kg
円

報告様式

数量区分	単位	使用量 合計	排出 係数
購入電力(昼間8時~22時)	kWh	123,456	0.384
購入電力(夜間22時~翌日8時)	kWh		0.384
都市ガス	m ³	170	2.23
液化石油ガス(LPG)	kg	250	2.70
液化天然ガス(LNG)	kg		2.70
灯油	L		2.49
A重油	L	18,000	2.71
軽油	L	368	2.58

該当する
係数を
記入

LNGの排出係数を
LPGに適用している。
(LPG排出係数は**3.0**)

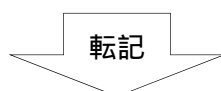
報告様式の記入欄の選択誤り

報告様式のエネルギー使用量欄に入力すれば、対応する排出係数が自動的に選択されるようになっているシートの場合は前記の排出係数の選択誤りは生じません。しかし、そうしたシートであっても、記入欄の選択を間違えると、結果的に不適切な排出係数が適用されて間違った排出量が算定されてしまいます。

例 (集計表) LPG の排出量 (転記) (報告様式) LNG の排出量欄

集計表

数量区分	単位	当期
購入電力(昼間8時~22時)	kWh	123,456
購入電力(夜間22時~翌日8時)	kWh	
都市ガス	m ³	170
液化石油ガス(LPG)	kg	250
液化天然ガス(LNG)	kg	
灯油	L	
A重油	L	18,000
軽油	L	368



報告様式

数量区分	単位	使用量 合計	排出 係数	CO2 排出量 (kg)
購入電力(昼間8時~22時)	kWh	123,456	0.384	47,407
購入電力(夜間22時~翌日8時)	kWh		0.384	0
都市ガス	m ³	170	2.23	379
液化石油ガス(LPG)	kg		3.00	
液化天然ガス(LNG)	kg	250	2.70	675
灯油	L		2.49	0
A重油	L	18,000	2.71	48,780
軽油	L	368	2.58	949

LPG 使用量を LNG の欄に記入しているため、誤って集計されている。

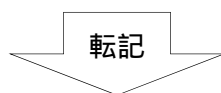
他の報告でを使用した排出係数の適用

地方自治体が採用する排出係数と、温対法に基づく報告や企業が環境報告書等で使用している排出係数が異なる場合があります。他の報告でを使用した排出係数をそのまま地方自治体の報告にも使用してしまうと誤った報告になってしまいます。

- 例 温室効果ガス排出量報告制度でを使用した電力の排出係数 0.384
 ある地方自治体の報告書制度が定める電力の排出係数 0.395

ある地方自治体の排出係数一覧

種類	排出係数	単位
購入電力（昼間 8 時～22 時）	0.395	kWh
購入電力（夜間 22 時～翌日 8 時）	0.395	kWh
都市ガス	2.23	m ³
液化石油ガス(LPG)	3.00	kg
液化天然ガス(LNG)	2.70	kg



報告様式

数量区分	単位	使用量 合計	排出 係数	CO2 排出量 (kg)
購入電力（昼間 8 時～22 時）	kWh	123,456	0.384	47,407
購入電力（夜間 22 時～翌日 8 時）	kWh		0.384	
都市ガス	m ³	170	2.23	
液化石油ガス(LPG)	kg	250	3.00	654
液化天然ガス(LNG)	kg		2.70	0
灯油	L		2.49	0
A 重油	L	18,000	2.71	48,780
軽油	L	368	2.58	949

温室効果ガス排出量報告制度で使用した係数を適用している。
0.395 が正しい。

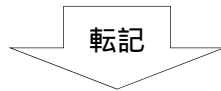
改訂前の排出係数の適用

改訂後の排出係数ではなく、改定前の係数を使用していることがあります。

例 改訂前の電力排出係数 0.384
改訂後の電力排出係数 0.375

ある地方自治体の排出係数一覧（当年度）

種類	排出 係数	単位
購入電力（昼間 8 時～22 時）	0.375	kWh
購入電力（夜間 22 時～翌日 8 時）	0.375	kWh
都市ガス	2.23	m ³
液化石油ガス(LPG)	3.00	kg
液化天然ガス(LNG)	2.70	kg



報告様式

数量区分	単位	使用量 合計	排出 係数	CO2 排出量 (kg)
購入電力（昼間 8 時～22 時）	kWh	123,456	0.384	47,407
購入電力（夜間 22 時～翌日 8 時）	kWh		0.384	
都市ガス	m ³	170	2.23	
液化石油ガス(LPG)	kg	250	3.00	654
液化天然ガス(LNG)	kg		2.70	0
灯油	L		2.49	0
A 重油	L	18,000	2.71	48,780
軽油	L	368	2.58	949

前年度の係数を記入している。
0.375 が正しい。

(参考) 間違いの起こりにくい報告様式の工夫

一般に排出係数の理解や区別は難しいものです。エネルギーの種類を選択すれば排出係数が自動的に参照され、自ら入力しなくても済むような報告様式を工夫することで、不適切な係数の選択による算定ミスを防ぐことができます。

また、請求書と同じ表示単位を選択できるようにすれば、単位換算は必要なくなります。

(2) 点検の方法とポイント

大きな間違いは、前年度の数値等と比較することによって発見することができます。

4 頁の「(1) 算定報告でみられる間違いの種類」で例示したように、単位の桁違いや記入漏れ等があると、大きな前年対比差異となります。

なお、報告の初年度においては、比較数値がなく、また、事業者の理解も進んでいないため、他社との比較や規模を勘案した点検を行うなど、特に注意と工夫が必要です。

点検は主に次のような比較数値との整合性をみることによって行います。著しい増減や予想される範囲から大きく乖離する異常値を把握し、その理由が合理的かどうかを確かめます。

比較対象数値

- ・ 前年度報告内容（エネルギーの種類、エネルギー使用量、排出係数との比較）
- ・ 計画数値との比較
- ・ 他社比較

なお、次のような環境にある場合、間違える可能性が通常より高いため、より注意が必要です。

(ア) 算定担当者の変更があった

(イ) 報告様式や排出係数に変更された

(ウ) 設備の変更や使用エネルギーの変更があった

月次データの活用（前年同月比、月次変動）

事業者は、各月のエネルギー使用量を集計して 1 年間の使用量を算出しています。月次変動や前年同月比での著しい増減、また、それらと削減対策との対応をレビューすることで入力ミス等を見ることができる場合があります（16 頁参照）。

地方自治体の報告様式または提出資料として月別のデータを求めている場合は、地方自治体の事務所では月次データを使用した点検はできませんが、事業所への訪問時に事業者が保管している月次データを活用して点検することができます。

前年度報告内容（エネルギーの種類、エネルギー使用量、排出係数の比較）との比較・月次推移の分析

エネルギーごとに使用量を比較し、使用状況の特徴や変化をみます。

- ・前年と比べ著しい増減はあるか。
- ・特に使用量が多い月、少ない月について、その理由は推測できるものか。
- ・前年同月と比べ、増減に変化はあるか。著しい増減の理由は納得できるものか。

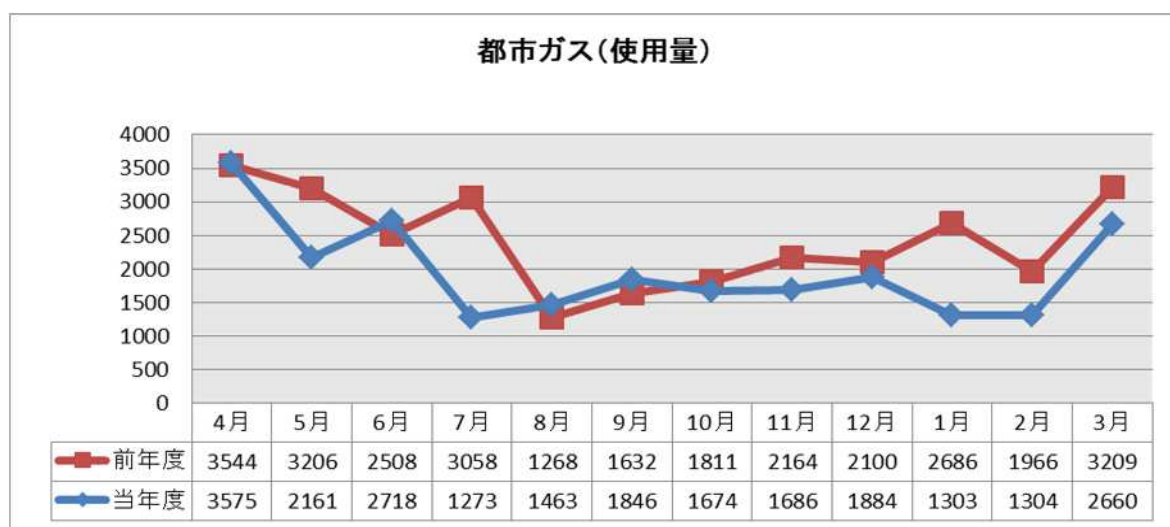
分析に際しては、管理表と合わせてグラフを利用すると、使用量の変動を捉えやすくなります。

【様式1：エネルギー管理表】（「推進ガイドライン」参照）

年間エネルギー使用量

区分	単位	4			3			前期との比較(年間累計)		目標値との比較(年間累計)			
		前期	当期	前期比増減率(%)	前期	当期	前期比増減率(%)	前期(d)	当期(e)	前期比増減率(%) (e-d)/d	当期目標(f)	目標達成率(%) -(e-f)/f	評価
エネルギー使用量	購入電力(昼間8時～22時)	kWh			-			-	0	0	-	-	-
	購入電力(夜間22時～翌日8時)	kWh			-			0	0	-	-	-	
	都市ガス(右からガス圧を選択してください) 低圧	m ³	3,544	3,575	0.9%	3,209	2,660	-17.1%	29,152	23,547	-19.2%	29,050	18.9%
	液化石油ガス(LPG)	kg			-			-	0	0	-	-	-
	液化天然ガス(LNG)	kg			-			-	0	0	-	-	-
	灯油	ℓ			-			-	0	0	-	-	-
	A重油	ℓ			-			-	0	0	-	-	-
	軽油	ℓ			-			-	0	0	-	-	-
	振り返り欄 (毎月・年度末に実績を振り返り、前期と比較して削減対策が進展しているか、異常な増加はないか確認してみよう)					都市ガスは高効率機器の効果により前期比10%削減となった。			都市ガスは目標達成できた。				

上記の数値をグラフ化した場合



【様式1：エネルギー管理表】(「推進ガイドライン」参照)

区分		単位	前期との比較(年間累計)			目標値との比較(年間累計)			
			前期(g)	当期(h)	前期比増減率(%) (h-g)/g	当期目標 (i)	目標達成率(%) -(h-i)/i	評価	
エネルギー ごとのCO2 排出量	購入電力(昼間8時～22時)	0.000518	tCO2/kWh	379.2	340.0	-10.3%	326.3	-4.2%	
	購入電力(夜間22時～翌日8時)	0.000518	tCO2/kWh	2.2	1.9	-10.7%	1.9	0.1%	
	都市ガス	0.002230	tCO2/Nm ³	69.5	62.6	-10.0%	62.6	0.1%	
	液化石油ガス(LPG)	0.003000	tCO2/kg	0.0	0.0	-	0.0	-	-
	液化天然ガス(LNG)	0.002700	tCO2/kg	0.0	0.0	-	0.0	-	-
	灯油	0.002490	tCO2/ℓ	0.0	0.0	-	0.0	-	-
	A重油	0.002710	tCO2/ℓ	0.0	0.0	-	0.0	-	-
	軽油	0.002580	tCO2/ℓ	0.0	0.0	-	0.0	-	-
	CO₂合計		t	452.0	404.5	-10.5%	390.9	-3.5%	
	売上高100万円あたりのCO₂排出量		tCO ₂ /M¥	2.0	1.7	-13.4%	1.7	-1.9%	
振り返り欄 (毎月・年度末に実績を振り返り、前期と比較して削減対策が進展しているか、異常な増加はないか確認してみよう)			電気機器について高効率機器の導入効果及び省エネルギーの徹底効果により、電気使用量が前期比10%削減できた。都市ガスは高効率機器の効果により前期比10%削減となった。			ルールの徹底及び省エネ設備の導入を予定通り実施し、都市ガスは目標達成できたが、電気の省エネ設備投資効果が予定した削減効果より少なかったため電気について目標比4%増となった。CO ₂ 排出量の大部分は電気によるため、全CO ₂ 排出量及び売上高当たりCO ₂ 排出量は目標未達となった。			

年間CO₂排出量

(地球温暖化の原因となるCO₂排出量は(使用量×排出係数=CO₂排出量)で計算できます。)

取組内容
や計画と
整合して
いるか？

同業他社との比較

同業他社と比較することで異常値を発見できることがあります。

比較の対象

- ・ 同じ報告制度に基づく同業他社の報告内容
- ・ 公表資料

A社の報告書

		目標	実績
基準年度	年度		470
前々年度	-2 年度	465	460
前年度	-1 年度	451	452
当年度	0 年度	391	0
次年度	1 年度	382 ⑩	

B社の報告書

		目標	実績
基準年度	年度		1,175
前々年度	-2 年度	1,163	1,150
前年度	-1 年度	1,128	1,130
当年度	0 年度	978	1,150
次年度	1 年度	382 ⑩	

著しい
違いが
あるか。

【参考：同業他社情報】

- ・ ビルの省エネルギーガイドブック 2011-2012（財団法人省エネルギーセンター）
http://www.eccj.or.jp/audit/build_guide11/buildguide.pdf
- ・ 工場の省エネルギーガイドブック 2011-2012（財団法人省エネルギーセンター）
http://www.eccj.or.jp/audit/fact_guide11/factory_g.pdf
- ・ 地球温暖化対策報告書に基づく自己評価指標（試行版）【業種別ベンチマーク】
- ・ 自己評価指標（ベンチマーク）解説書～地球温暖化対策報告書制度～（東京都環境局）
<http://www8.kankyo.metro.tokyo.jp/ondanka/benchmark/index.html>

3. 事業所の訪問

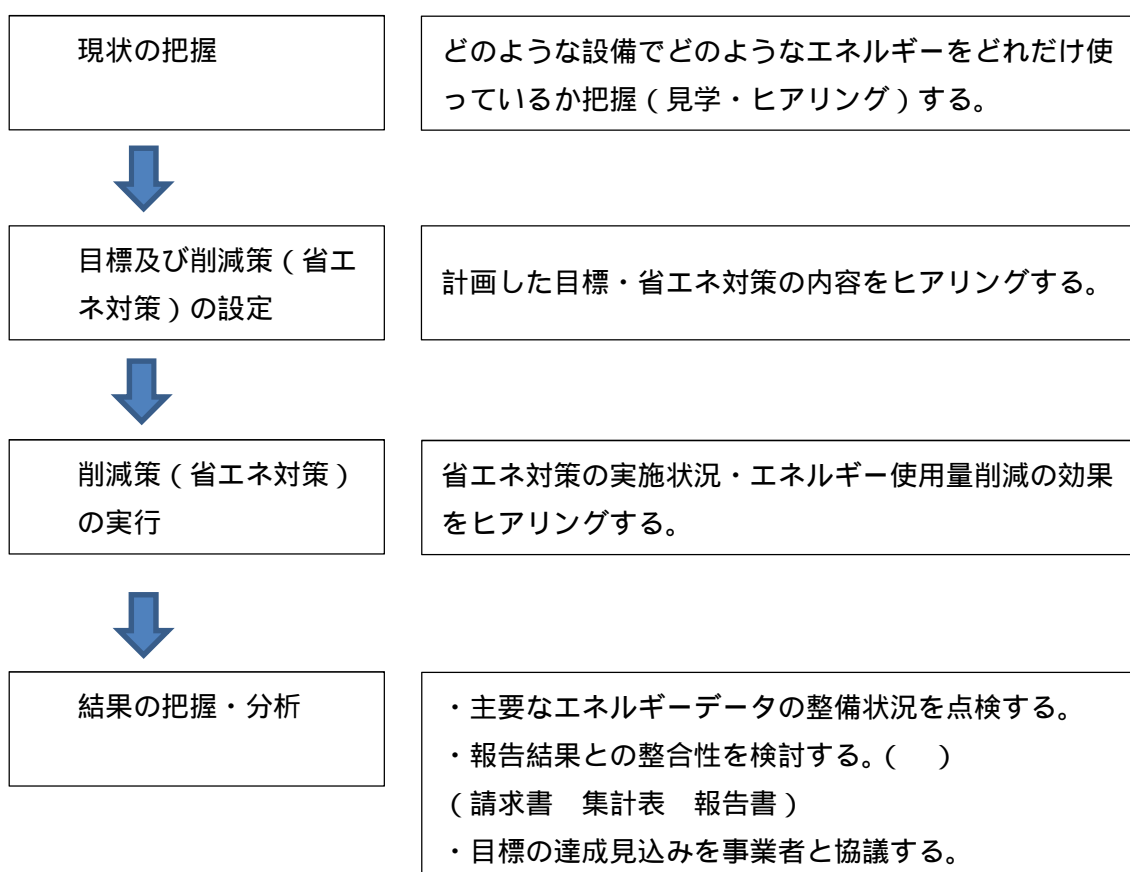
事業所を訪問し、実際の省エネの現場を見ることで多くの情報が得られ、制度の改善や今後の削減支援策の検討に役立てることができます。

事業所訪問によって得られる情報等

- ・現状や対策についてより深く理解することができる。
- ・算定のための資料を実際に見ることで作業負荷の程度や事業者の管理状況がわかる。
- ・事業者が困っていることや工夫などがわかる。

(事業者の対策実施サイクル)

(点検者)



事業者の報告書様式で月別の明細データの記載が求められていない場合、事業所の訪問時に、保管されているデータを用いて、月次推移や前年同月比の分析を実施することが出来ます(16頁参照)

【参考例：点検用チェックリスト】

No. 事業者：

事業所：

No.	項目	有	無 N/A	不明	メモ
I	(地方自治体)事務所での点検				実施者： 実施日： 年 月 日
I-1	前年度報告内容との比較				
a	間違った報告様式(旧様式や異なった様式等)の使用				
b	担当者の変更				
c	事業所面積の増減				
d	設備の新設・更新・撤去				(情報がない場合はBで実施)
e	使用エネルギー種の変更				
f	電力供給先の変更				(情報がない場合はIIで実施)
g	排出係数の変更				
h	エネルギー使用量：前年度比増減率				電力： % 都市ガス： %
i	上記h(エネルギー使用量)の増減と報告されている増減理由との不整合				
j	上記h(エネルギー使用量)の増減とc,d,eの状況との不整合				
k	CO2 排出量：前年度比増減率				%
l	上記k(エネルギー使用量)の増減とf,g,hとの不整合				
I-2	月次エネルギー使用量推移の分析				(報告がない場合はIIで実施)
a	月次の大きな変動				
b	前年同月比での著しい増減				
c	上記a及びbの変動または著しい増減の異常性(他社の傾向と大きく異なる、I-1のc,d,eと整合しない、等)				
I-3	計画数値との比較				(報告がない場合はIIで実施)
a	CO2 排出量またはエネルギー使用量：目標比増減率				%
b	上記aの増減と報告されている対策等との不整合				
I-4	同業他社との比較による異常性				
II	(訪問先)事業所での点検				実施者： 実施日： 年 月 日
II-1	現状把握/見学				
a	事業所外へのエネルギー供給				
b	稼働状況(設備稼働、営業/操業日・操業時間)				
c	本チェックリストI-1の状況の詳細ヒアリング				
d	事業所見学 (エネルギー供給点、設備、メータ等の分布、設置、稼働状況)				
II-2	削減目標・対策のヒアリング				
II-3	削減対策の実施状況及び効果				
II-4	エネルギーデータの整備状況				
a	集計・報告体制のヒアリング				
b	集計表と報告数値との不整合				
c	集計表と元データ(請求書等)との不整合				
d	エネルギー供給点と請求書や検針票等との不整合				
e	集計した請求書の発行元と燃料費の元帳の記載(支払先)の不整合				

【参考情報】

関連法規制

- ・ エネルギーの使用の合理化に関する法律
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S54/S54HO049.html>
- ・ 地球温暖化対策の推進に関する法律
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H10/H10HO117.html>

温室効果ガス排出量算定

- ・ 温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル
<http://ghg-santeikohyo.env.go.jp/manual>

省エネ取組・温暖化対策に関する情報

- ・ 事業者のためのCO₂削減対策 Navi <http://co2-portal.env.go.jp/>
事業者のCO₂削減対策の実施に役立つ情報として「簡単CO₂削減対策チェック」をはじめ、対策技術や補助制度の情報を提供
- ・ 省エネに関する各種情報 一般社団法人省エネルギーセンター
<http://www.eccj.or.jp/>

省エネ診断等

- ・ 一般財団法人省エネルギーセンター 節電診断・省エネ診断
<http://www.eccj.or.jp/shindan/index.html>

排出量取引

- ・ 排出量取引インサイト <http://www.ets-japan.jp/>
排出量取引に関する基礎情報を提供
- ・ 国内排出量取引制度 <http://www.env.go.jp/earth/ondanka/det/index.html>